

そう だい お じ だい い じん て がみ
総 題 「終わりの時代に生きる一ヘブライ人への手紙」

だい な か た ま し い い か り
第7課 魂の錨 イエス

いち あんそくにち ご ご
1. 安息日午後

たいへん じょうきょう ひと かみさま うたが しんこう せいちょう と れいてき せかい
大変な状況がやってくると、人は神様を疑い、信仰の成長を止めてしまうことがあります。霊的な世界
において、止まってしまうということは、後退するのと同じくらい危険なことです。信仰の成長が止まる時、そ
のひと かみさま はな じ かん もんだい
の人が神様から離れていくのは時間の問題だからです。

じん て がみ ひと む か れいてき お わたし
ヘブライ人への手紙は、そのような人たちに向けて書かれています。霊的に落ち込んでしまいがちな私たちへの
けいこく
警告はもちろんのこと、たくさんの愛情深い励ましがあるのです。

に にちようび みことば あじ
2. 日曜日：御言葉のすばらしさを味わう

わたし ちじょう てんごく けいけん あじ みことば へんか うち
私たちは地上にいながらにして、天国の経験を味わうことができます。御言葉によっていろいろな変化が内
あた と き わたし てんごく けいけん あじ み
に与えられる時、私たちは天国の経験の味見をしているのです。

ひとびと あ の た わたし せいれい たす みことば た なが
イエスラエルの人々が荒野でマナを食べたように、私たちも聖霊の助けによって御言葉を食べましょう。眺
めに にな わ やくそく じぶん しん けいけん
めているだけでは何も分かりません。その約束を自分のものとして信じることで、そのすばらしさを経験できるの
です。

さん げつようび かいふく
3. 月曜日：回復できないこと

つみ す じ こ いち ど ひろ かみさま あたら いのち す
罪は、捨てたはずの自己をもう一度拾おうとします。しかしそれは、神様からいただいた新しい命を捨てるこ
とになってしまうのです。へん じん て がみ ひと かみ こ じぶん て あらた じゅうじか
ヘブライ人への手紙は、そのような人を「神の子を自分の手で改めて十字架につけ」
ていといっています。

じんせい じゅうじか せ お ひつよう じ こ す たたか
クリスチャン人生には、十字架を背負うことが必要です。それは自己を捨てるということです。これは戦いで
あり、キリストが助けてくださらなければ、だれ たたか う か
誰もこの戦いに打ち勝つことはできません。

よん かようび こい つみ のこ
4. 火曜日：故意の罪のためのいかにえは残っていない

れい ぶじよく つみ ただ し おか つみ ただ おし せいれい はたら
「霊を侮辱する」罪とは、正しいことを知っながら犯す罪です。正しいことを教えるのは聖霊の働きで
すから、それを無視することは聖霊の声を無視することになるのです。

かみさま ひと つみ ゆる ねが ゆる かみさま かんけつ
神様はどんな人でも、どんな罪でも赦したいと願っています。しかし赦しとは、神様だけで完結するものでは

ありません。神様の赦しの働きに私たちがどう応えるかもまた、大切な要素なのではないでしょうか。

5. 水曜日：もっと良いこと

ヘブライ人への手紙は、信仰生活における「善い行い」の大切さを教えています。救いの条件が人の行いであるということではありません。そのような善い行いが、神様に対する愛の最も重要な証拠になると言っているのです。

善い行いという外的は実をもたらすのは、信仰や忍耐という内的な成長です。それは土地と収穫の関係に似ています。収穫の充実は、土地が充実している証拠なのです。

6. 木曜日：魂の錨なるイエス

キリストは、神様の約束が確かである保証です。キリストの十字架の死と復活、昇天によって勝利の座についたこと。これら全ては、神様の言葉に力があることを証ししています。私たちはキリストを通して、天の約束につながる事ができるのです。

7. 金曜日：さらなる研究

弟子ヨハネと裏切り者ユダの人生を比べてみて下さい。2人とも長所と短所を持っていましたが、その運命は正反対です。なぜヨハネは自己に勝利し、ユダは自己に征服されてしまったのでしょうか。

どうすれば私たちは、ヨハネのように短所を持ちながらも、キリストの弟子として成長を続けることができるのでしょうか。